



▲地震体験車「ぐらら」。あいにくの天候にもかかわらず、家族連れの行列ができていました

9月2日、地下鉄荒井駅の車両基地で、「バス・ちか祭り」を開催しました。この日は荒井駅周辺で、手作り品を販売する「荒井なないろマルシェ」や、「GISS 緑日」、「出張海岸公園」など、多彩なイベントが用意された「あrafes2018」も同時開催。今年で2回目の開催となるバス・ちか祭りには、約6千人もの

子どもから高齢者まで幅広い年代の方に防災について楽しく学んでもらうため、8月26日に勾当台公園で「せんだい防災のひろば2018」を開催しました。当日は、防災・減災に関するブーイス出展のほか、子どもたちによる防災ダンスや消防音楽隊による演奏を披露。毎年大人気のはしご車の搭乗体験では、高いところから望む中心部の景色に子どもたちは満足げな表情でした。また、地震体験車「ぐらら」も登場。震度7の大きな揺れを実際に体験し、地震が発生した際の身の安全を守る方法を確認しました。

市政トピックス

楽しく防災の知識が身に付く「せんだい防災のひろば」



▲バスの車体に楽しそうに絵を描く子どもたち

◀地下鉄車両と綱引き勝負！どっちが勝ったかな！？

市政トピックス

バスにお絵描きが大人気！「バス・ちか祭り」を開催しました

方々が来場しました。普段は入ることのできない地下鉄車両のメンテナンスを行う検修場を見学したり、運転士の制服を着用して記念撮影をしたり、多くの家族連れでにぎわいました。中でも人気だったのが、バスの車体に自由に絵を描くことができる「お絵描きバス」。子どもたちはカラフルなペンを持ち、思い思いに絵を描いていました。完成したお絵描きバスは現在市内を運行中です。

また、地下鉄車両が洗浄機の中を通る様子を乗車して観察する「洗浄機通過体験」や、車両との「綱引き体験」も実施。どのコーナーも長い行列ができる人気ぶりです。会場内は子どもたちの歓声と笑顔であふれかえっていました。

市政トピックス 障害理解サポーター養成研修を実施しました

市では、障害の有無に関わらず誰もが住みやすいまちづくりを推進するための取り組みを進めています。その一環として、障害のある方が講師となり、企業等の団体

市政トピックス 行財政改革の取り組みを進めています

市では、平成28年3月に策定した「行財政改革推進プラン2016」（計画期間：平成28年度～33年度当初）に基づき行財政改革を推進しており、平成30年度当初までの実績を取りまとめました。計画に掲げる49の項目による効果額は、平成29年度が約65億円で、計画当初からの累積効果額は約121億円となっています。

今後、プランの成果や課題、昨今の社会情勢の変化等も踏まえながら、行財政改革の推進に取り組んでいきます。

- 市有建築物、インフラ系施設の長寿命化等の取り組みの推進
市有地の売却処分など、財源創出に向けた取り組みの推進
市税や国民健康保険料等の収納率の向上
職員のコンプライアンス意識の浸透に向けた取り組み

◎行財政改革推進プラン2016の実績は、市役所本庁舎1階市政情報センター、宮城野区・若林区・太白区情報センターで閲覧できるほか、市ホームページでもご覧いただけます

市政トピックス

を対象に、障害に対する良き理解者を養成する障害理解サポーター（コロン・サポーター）養成研修を開始しました。

9月4日に1回目の研修を行い、日本銀行仙台支店の社員50人が参加。講師から日常生活の中で妨げと感ずることなど、実体験を交えた話を聞いたほか、具体例に基づき、障害のある方に対して必要な配慮や一人一人にできることなどを、グループワークを通して考えました。参加者からは「障害のある方の立場になって考えることができた」という声がかかれ、障害の理解を深める機会となりました。

市政トピックス 音楽がまちを包み込むジャズフェス開催

杜の都の秋の風物詩「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が9月8日・9日に開催されました。

28回目を迎える今回のテーマは「伴走」。誰もが主役であり、誰もが誰かの伴走者であるという思いが込められています。当日は、定禅寺通、アーケード街などが演奏の会場で779のグループが演奏。日ごろ見慣れた空間が一気にスベシャルステージになりました。まちを歩き交う人々は、手拍子

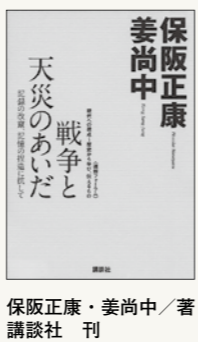
をしたりリズムに合わせて踊ったり、まちと音楽が一体化した雰囲気を感じていました。



市政トピックス 北海道胆振(いぶり)東部地震―被災地に職員を派遣

9月6日に北海道で発生した地震に伴い、市では、緊急消防援助隊70人を派遣し、消防ヘリコプターなどによる救助活動を行いました。また、歴史姉妹都市の白老町へ支援物資を届けたほか、安平町に保健師を、札幌市に下水道管路の災害査定の助言を行う技術職員を派遣。支援を続けています。今後も要請に応じて支援を行っていくとともに、被災地のいち早い復興をお祈りいたします。

3.11 震災文庫を読む



保阪正康・姜尚中 著 講談社 刊



日本演劇教育連盟 編 晩成書房 刊

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」

震災を描く視点

NPO法人 劇団仙台小劇場 代表 石垣 政裕

「脚本集3・11」

東日本大震災の直後、仙台で起きていることを全国の演劇仲間にもメールで伝え続けた記録を、最近見直す機会がありました。震災を記録することの大切さは言うまでもありませんが、同時に、どのような視点で描くのかをしっかりと考え抜く必要があると、この本では、昭和史を研究し語り継いでいるノンフィクション作家・保阪正康と、テレビや新聞、雑誌などでも活躍している政治学者・姜尚中が語っています。大震災とそれに続く原発の事故の「今」を、一気に「歴史」に関連付けていく展開は、息をのむものがあります。保阪は、「同時代の中の責任」と「歴史に対しての責任」を私たちは負っており、それをしっかり理解する必要があります。

また、篠原久美子作の朗読劇『空の村号』は、原発事故で変わりゆく地域の中で希望に向かう子どもたちを描く作品で、劇団仲間による上演をはじめ、日本各地で上演されています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585